



## 近畿本部建設部会 第2回年次大会・業績研究発表会 参加申込書

近畿本部建設部会 第2回年次大会・業績研究発表会に参加申込みします。

平成26年 月 日

|         |              |       |
|---------|--------------|-------|
| 氏名      | 技術士会（会員、非会員） |       |
| 技術士部門   |              |       |
| 勤務先     |              |       |
| 電話番号    |              |       |
| FAX番号   |              |       |
| メールアドレス |              |       |
| 年次大会    | 参加する         | 参加しない |
| 研究発表会   | 参加する         | 参加しない |
| 懇親会     | 参加する         | 参加しない |

【申込み先】公益社団法人 日本技術士会近畿本部 建設部会代表 貴志義昭

E-mail : [ipej-knk.kensetsu@jerico-kishi.com](mailto:ipej-knk.kensetsu@jerico-kishi.com)

FAX : 072-242-7179 (担当：南側晃一)

公益社団法人日本技術士会近畿本部建設部会  
第2回年次大会・業績研究発表会会場および懇親会会場

1. 年次大会・業績研究発表会

日時：平成26年7月5日（土） 年次大会（13:00～13:30）、研究発表会（13:40～18:00）

会場：株式会社エーバイシー セミナールーム

大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満ビル5階

2. 懇親会 18:00～20:00

場所：繁蔵（しげぞう） TEL：06-6943-1446

大阪市中央区天満橋京町2-15 岡本ビルB1

会費：4,000円

年次大会・業績研究発表会 会場

株式会社エーバイシー セミナールーム

大阪市北区天満1丁目19番4号

センチュリーパーク東天満ビル5階



懇親会 会場 「繁蔵（しげぞう）」

大阪市中央区天満橋京町2-15 岡本ビルB1

## 業績研究発表会 次第

### 開会挨拶

13:40～13:45 **開会挨拶** 建設部会 代表 貴志義昭

13:45～13:50 **来賓挨拶** 近畿本部 本部長 福岡 悟

### 業績研究発表

13:50～14:10 **あれから 40 年～阿倍野地区再開発とあべのハルカス 300**  
Jerico まちづくり研究所 貴志 義昭

14:10～14:15 質疑応答

14:15～14:35 **3次元配筋システムの設計・施工管理への適用と将来の展望**  
株式会社エーバイシー 本多 顕治郎

14:35～14:40 質疑応答

14:40～15:00 **浸透・伏流水調査の河川敷利用や土壌被覆浄化槽への適用**  
NPO流域調整室 代表者理事 安東 尚美

15:00～15:05 質疑応答

15:05～15:15 休 憩

15:15～15:35 **ジオテキスタイルを用いた補強土の設計・施工および維持管理  
－設計施工マニュアルの改訂、維持管理手法および変状事例など－**  
前田工織株式会社 吉田 浩一

15:35～15:40 質疑応答

15:40～16:00 **盛土急勾配化（ラディッシュアンカー工）における  
地表面のソイルセメント噴出状況でみる鉛直抑止杭の品質管理**  
石川技術士事務所 石川 博喜

16:00～16:05 質疑応答

16:05～16:25 **まだ壊れていない土構造物の維持管理法の提案**  
有限会社太田ジオリサーチ 太田 英将

16:25～16:30 質疑応答

16:30～16:40 休 憩

### 特別講演

16:40～17:30 **特別講演  
廃棄物埋立跡地の問題点と安全利用について**  
環境計画センター専任理事 鍵谷 司  
(建設、衛生工学、環境)

17:30～17:45 質疑応答

### 閉会挨拶

17:45～17:50 **閉会挨拶** 建設部会 副代表 杉本哲雄

### 懇親会

18:00～20:00 天満橋駅前「繁蔵」にて懇親・交流会

## 特別講演

### 廃棄物埋立跡地の問題点と安全利用について

環境計画センター専任理事 鍵谷 司

技術士（衛生工学・建設・環境）

第一種放射線取扱主任者等

**【略 歴】** 1969年 関西学院大学理学部化学科卒業、日本原子力研究所高崎研究所研究員、(社)日本廃棄物対策協会、(現)環境計画センター専任理事、日本技術士会近畿本部役員、衛生工学部会副部会長、日本産業廃棄物処理振興センター(環境省)非常勤講師、大阪府立大学高専非常勤講師、A地方裁判所調停委員&専門委員(土壌汚染)、B地方裁判所専門委員(地下水汚染)奈良県広陵町公害監視委員会委員長&ごみ町民会議会長等として活動中。



#### 【講演概要】

廃棄物の種類ごとに埋立施設の構造や維持管理方法が最終処分基準省令で規定されている。所定の手続きを経て最終処分場が廃止されると土地利用が容易になる。しかしながら、土地利用にあたり、掘削すれば廃棄物が出てくるし、地盤の不同沈下、汚水やガスが発生するなど自然由来の土地では起こりえないような多くの問題が起こる。

ここでは、廃棄物埋立処分場跡地の問題点を整理するとともに様々な利用事例を通して技術士として問題に取り組んだ体験に基づいて跡地の安全利用について紹介します。

## 研究発表

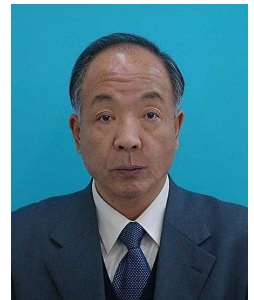
### あれから40年～阿倍野地区再開発とあべのハルカス300

Jerico まちづくり研究所 貴志 義昭

技術士（建設部門）

#### 【略 歴】

1943年生。大阪市出身。1968年(株)アール・アイ・エーに入社。当初から定年退職まで計画部門に在籍。1977年技術士（建設部門）登録。阪神淡路大震災では、新長田駅北地区復興土地区画整理事業区域内の水笠三丁目地区の共同建替事業を担当、事業完了まで関わる。東日本大震災では、石巻市で2012年の10ヶ月強、土木系コンサルタントの一員としてまちづくり協議会の活動に参加。現在、近畿本部建設部会部会長。



#### 【発表概要】

私は、1969年中頃から約2年間、大阪市委託事業の阿倍野地区市街地再開発事業・基本計画作成チームに出向し、計画作成に参画しました。再開発対象地区は、当時からもキタ・ミナミに較べても市内有数のターミナルでありながら、庶民性はあるが立地特性を活かしきれていない街と言われ続けてきました。地区の西側は天王寺公園、いわゆる当時の飛田地区、新世界・西成につながる猥雑性が残された通称金塚地区で、旭町通り商店街を軸とする木造密集市街地であり、防災・住環境・防犯という多くの都市再開発課題を抱えていました。当再開発事業は、地区面積は約34haで、我国最大規模である。東側隣接地では、2014年3月7日に高さ日本一のあべのハルカス300がグランドオープンした。今回は、当地区再開発の経緯、成果を報告し、まちづくりの課題を皆様と考えたいと思います。

### 3次元配筋システムの設計・施工管理への適用と将来の展望

株式会社エーバイシー 本多 顕治郎

技術士（建設部門）

#### 【略歴】

1980年奥村組土木興業入社、工務部技術課。1988年日特建設株式会社大阪支店技術課を経て、1990年本多設計事務所設立。1991年株式会社エーバイシーに社名変更、取締役就任し現在に至る。2004年～2008年大阪産業大学非常勤講師。2013年～立命館大学非常勤講師。専門は基礎設計。現在、地盤と構造物の動的相互作用における構造物のモデル化の研究に取り組んでいる。



#### 【発表概要】

建設業界全体の効率化とコスト縮減に取り組む上で、設計から施工段階まで全般の管理が重要と考え、3次元システムに注目して設計・施工管理への適用を試みている。例えば、大型の土木構造物では配筋図が数百枚を超える場合もあり、多大な労力を要し数量の計上ミス等が品質管理上の問題になることが多い。3次元システムは、様々な形状の配筋図が作成でき、鉄筋重量や躯体数量の算出が可能である。本論では、実施設計での適用における数量計算の精度面の検証と今後の課題について述べる。

### 浸透・伏流水調査の河川敷利用や土壤被覆浄化槽への適用

NPO流域調整室 代表者理事 安東 尚美

技術士（建設部門、総合技術監理部門）

#### 【略歴】

1984年近畿技術コンサルタンツ株式会社入社、1994年技術士（建設部門、河川砂防及び海岸）登録、2000年～建設コンサルタント会社で次長、技師長等。2003年NPO流域調整室設立、APEC Engineer(Civil)、2011年技術士（総合技術監理部門）登録、和東石寺用地取得。



#### 【発表概要】

治水に支障のない河川敷利用の判定や、耕作と居住が混在する地域での水循環処理の一案である土壤浄化トイレの課題解決において、伏流水や土壤水分の計測を行い、地下水の遮断方法を検討した。日本の過疎地や途上国地域での技術移転も可能な工法として確立する過程を示すものである。

## ジオテキスタイルを用いた補強土の設計・施工および維持管理 ー設計施工マニュアルの改訂、維持管理手法および変状事例などー

前田工織株式会社 吉田 浩一  
技術士（建設部門）

### 【略歴】

1974年生、福井県出身、東京理科大学理工学部 卒業、1997年 前田工織株式会社 入社、主にジオテキスタイルを用いた補強盛土の研究・開発および設計に従事。2012年 技術士（建設部門）登録



### 【発表概要】

今般、道路土工指針が改訂されたことに伴い、その指針に適合したジオテキスタイルを用いた補強土の設計・施工マニュアル(第二回改訂版)が発行された。改訂では性能規定型設計の導入に向けた基本的な考え方や、耐震設計法が整理された。本論文では改訂概要と併せて、補強土の変状事例や、健全度評価および補修・補強などの維持管理方法について報告する。

## 盛土急勾配化（ラディッシュアンカー工）における 地表面のソイルセメント噴出状況でみる鉛直抑止杭の品質管理

石川技術士事務所 石川 博喜  
技術士（建設部門）

### 【略歴】

1979年大鉄工業(株)入社 JR西日本グループとして鉄道建設工事、災害復旧、トラブル技術支援他、技術管理、品質管理、JR西日本技術基準見直しWG、1987～1993年 ジェイアール西日本コンサルタンツ出向、JR片福線竹島工区設計他、1999～2014年大阪産業大学非常勤講師、2013年大鉄工業(株)退職、2013年(株)アイゼック入社兼務石川技術士事務所設立 現在、近接施工の設計施工業務および橋梁他維持管理業務に取組中。



### 【発表概要】

鉄道近接施工での盛土急勾配化施工で、深層混合処理工法によって造成された鉛直抑止杭は、粘性土の層において混合効果が得られず品質不良が発生し、切土時における地盤全体の安定を確保することができなかった。そこで、施工中の攪拌混合状態を確認するために、作業者の施工経験による地表面でのセメントミルク噴出状態を目視で確認する方法と固化材の種類、各種試験および攪拌装置の機能から地中部での混合状態を確認する方法を検証して、今後の品質不良を未然に防ぐ品質管理の一手法について提案する。

## まだ壊れていない土構造物の維持管理法の提案

有限会社太田ジオリサーチ 太田 英将

技術士（応用理学、建設、森林、総合技術監理部門）、Apec Engineer (Civil)

### 【略 歴】

1960年鳥取県生。1982年静岡大学理学部地球科学科卒業。学生時代の専門は、南部フォッサマグナ地域の地質・古地磁気で、丹沢山地が南の海からフィリピン海プレートに乗って北上し、約400万年前に日本列島に衝突したことを研究。卒業後、明治コンサルタント(株)を経て、1990年に太田ジオリサーチ創業、現在に至る。主に、地表近くの重力移動地質体に関する防災対策に従事。



### 【発表概要】

土で構成される土構造物斜面、あるいは自然斜面については、「素早く造る」「壊れたら素早く直す」ということを念頭に、主に経験知に基づいた調査・設計手法が発達してきた。維持管理が重要な時代になり、「造る」と「直す」の間にある「まだ壊れていない」ものの評価が重要となってきたが、そのための（時間・コスト・論理的な合理性を持った）実現可能な具体的手法が存在しなかった。新しく開発された調査機器等を用いた手法を紹介する。

以 上